

JWFファンド2021 完了プロジェクト 概要

4. Thallykothanoor村の既存地下水涵養設備の修繕(インド)

- 実施団体: Tamil Nadu Board of Rural Development (TNBRD) (#298)
- 実施地: インド Tamil Nadu州Krishnagiri県Thally, Thallykothanoor村
- 費用: 3,695ドル (JWFファンド1,500ドル、団体1,705ドル、受益者490ドル)
- 受益者数: 500人
- 実施地の水問題:

Thallykothanoor村は標高930mの傾斜地にあり、年間降水量は885ミリで夏季の渇水が問題である。土壌は砂質ロームで降雨による流出が顕著である。ここでは、砂防ダム、浸透池、蛇籠施設で土壌浸出を防ぎ、地下水位を貯えかんがい用水井や飲料水を涵養してきた。こうした設備は設置から15年以上経過して、維持管理が不十分なために雑草が生え、堆砂や周辺部の劣化等が問題となっていた。このため、施設の貯水能力が徐々に減少して、かんがい用水や飲料水の不足をもたらしていた。



実施前:
維持管理されていなかった既存砂防ダム



実施後:
修繕後の蛇籠施設

- 主な活動内容:
関係者との初回ミーティング、住民による維持管理委員会の設立とメンバーへのトレーニング、既存の雨水貯留施設(地下水を涵養する設備)である砂防ダム(幅10m×深さ4m)、浸透池(10m四方×深さ5m)、蛇籠施設(幅8m×深さ2m)の修繕と周辺の整備。
- 特長(持続性): 住民による流域委員会が維持管理を監督する。
- 実施団体:
Tamil Nadu州Krishnagiri県など3県で42年にわたって農業、教育、村落開発に取り組んできた。2018年から継続して、同県で類似した水環境保全プロジェクトを実施した実績があった。

JWFファンド2021 フォローアップ結果

4. Thallykothanoor村の既存地下水涵養設備の修繕(インド)

【現状】

雨水貯留構造物は設計性能どおりに機能していた。ここから間接受益する1500以上の農民や家畜に、農業用水と飲料水をかんがい取水していた。こうした設備によって地下水が涵養され、堀井戸や打ち抜き井戸の水量も増大していた。多くの休耕地はこれによって農業活動ができるようになり、村落での就業機会をまさに増やしていた。

流域委員会は、この流域における水資源保護、農業と保健衛生環境の維持管理に重要な役割を果たしていた。彼らは流域開発計画の計画、実施、評価を共同で行っていた。事案を判定して、問題の重要度を設定して、持続的な流域経営の開発計画を作成していた。委員たちには、雨水貯留施設の維持管理と地域共同体へこれらの施設について長期的な維持管理と持続させることの重要性を啓発する責任がある。委員たちは政府計画、NGO、その他の機関から資金を動員して流域開発活動に充てることに参画していた。委員会に活動と収支を記録して、流域開発の諸計画について進捗報告する役割があった。委員会は流域における水利争議の解決、土地所有や資源の割り当ても行っていた。争議に関しては解決への仲裁者として議論を導く役割をしていた。また、生産者が市場に参入するときの支援も行っていた。

【変化】

このプロジェクトは、村の水資源保全、早魃の低減、地下水位の上昇に顕著な改善をもたらした。人と動物向けに質の高い飲料水へのアクセスを強化しただけでなく、農業用水の水資源改善にもなった。水が豊富になったので、定期的な手洗いや、清潔な環境を保ち、様々な目的のために水を利用する際にはより衛生的に行う習慣がついたのではないかと。

【その他】

近隣村落における水の危機について、実施団体に要望が寄せられていた。当プロジェクトでThallykothanoor村の人々に行ったものと同様な支援の請願をされていた。Thallykothanoor村の近隣村落では、似たようなプロジェクトへの資金需要が活発で、なんとかそれを満たされないと努力が示されていた。JWFファンド2021はとても有効だったので、可能であればこんどは自分たちにも融資されたいというものだった。



砂防ダム：貯水の様子



浸透池：貯水の様子



Sankarappaさんの野菜栽培

JWFファンド2021 フォローアップ結果

4. Thallykothanoor村の既存地下水涵養設備の修繕(インド)

現場からの声(抜粋)



Sankarappaさん (53歳、農業)

私は小規模農民で、12人家族です。私は4.5エーカー(約1.8ha)の土地、家畜8頭と深さ750フィート(約229m)の打ち抜き井戸を一つ持っています。打ち抜き井戸が唯一のかんがいと飲料目的の水源です。2年前のプロジェクト実施前は、0.5エーカー(約0.2ha)の広さを一毛作するだけの水しかありませんでした。定職を求めて、近くの町に移住する計画もしました。ちょうどそのとき、私たちの村にある雨水貯留施設を実施団体とJWFが修繕してくださいました。実施団体の技術支援、JWFの資金支援によって、私の土地でも野菜や花を滴下かんがいで育てられるようになりました。私は近所の農家のみなさんにも、仕事を与えられるようになりました。近いうちに、2エーカー(約0.8ha)の土地を買い増しすることにします。



Maleshさん (48歳)

我が家の主な所得は農業によるもので、私は2.5エーカー(約1ha)の土地を持っていて花を栽培しています。私の土地は浸透池に接していて、その池は1年間通じて雨水を貯水できています。私の土地からの土壌流出は、完全に防止されるようになりました。今は、かんがい用にも飲料用にも、十分な水を得られるようになりました。実施団体の協力により、混作も実施できるようになりました。私の所得は徐々に上昇して、子どもたちに良い高等教育を受けさせられるようになりました。追加収入と家族の要望で、一家に乳牛を4頭買おうとしています。



Ranganathanさん (64歳)

基本的には、私はバラ栽培農家をしています。JWFプロジェクトの導入前は節水技術や滴下・噴霧かんがい方式、雨水貯留施設維持管理についてわかりませんでした。村の雨水貯留施設修繕プロジェクトが終わって、私たちの飲料とかんがいに十分な水が得られました。今日、私は滴下と噴霧かんがいを採用して作物の収穫は増え、品質は高くなり、良い値段になる生産をできています。進歩をもたらしたJWFと実施団体に心から感謝いたします。